

## 信仰布教①

### 印刷技術を用いた布教

ド・ロ版大木版画「煉獄の靈魂の救い」

「煉獄の靈魂の救い」の版木(旧羅典神学校蔵)

ド・ロ版大木版画「公審判と人類の復活」

ド・ロ版大木版画「サンタマリア」(旧羅典神学校蔵)

ベルナール・プチジャンやマルク・マリー・ド・ロなどの宣教師は、16世紀後半にグーテンベルグの活版印刷を日本に定着させたイエズス会と同じように、布教における宗教書印刷の重要性を理解していました。イエズス会の前任者たちと同じように、彼らは本や版画を用いて長崎の人々に、キリスト教について教えようとしていました。ド・ロはフランスで印刷技術を学び、1868年に大浦天主堂に印刷所を設立するために派遣されました。大浦の印刷所で出版された宗教書は、人々がわかりやすいように、簡単な文章で書かれていました。これらの宗教書は、基本的なキリスト教の教えを伝え、人々が祈りの言葉を覚えることができるように出版され、版画たちは、キリスト教の教義を説明するための教材として用いられました。